

降水量ト流出量トノ關係

言計

言談

土木學會誌

第二卷第三號

大正五年六月

著者 工學士 金森 敏太郎

本會誌ニ登載セラレタル拙稿ニ對シ更ニ近藤博士並ニ三池君ヨリ高教ヲ辱フスルヲ得タルハ著者ノ感謝スル所ナリ

近藤博士ノ指摘セラレタル第二編雄物川ニ於ケル流出關係中ノ第十二表毎月流出係數表ニ關スル說明中最小ノ起ル月並ニ其回數ハ全ク余カ不注意ノ誤ニシテ初メ原稿ノ一通リ成リ居リシヲ後ニ降水量及流出量ノ計算ニ就テ少許ノ訂正ヲナセシ結果毎月流出係數ニ異動ヲ生セシニ其最小ノ起リシ月及回數ヲ訂正スルコトヲ遺忘セシカ爲メニ博士ノ叱正ヲ煩ハヌニ至リシハ恐縮ノ至リナリ依リテ此部分ヲ次ノ如ク訂正ス

最小ハ最大ノ如ク規則正シカラス二月ニ三回六月ニ二回八月ニ一回十月及十一月ニ各三回起レルヲ見ルナリ

次ニ雄物川トとらうん及えんす二川トノ流出關係ノ比較ヲ試ミタルハ第一編中ニ舉ケタル諸川中最モ多ク雄物川ニ類似セリト思ハルハ彼ノ二川ナルカ故ナリ然ラハ彼此兩流域ノ間ニ如何ナル異同アリヤト云フニ其詳細ハ之ヲ明カニセスト雖モ雄物川及とらうん兩流域ニ就テハ少クトモ次ノ如キ差違アリ

- 1 雄物川流域ハ島國ノ海岸ニ近キニ反シとらうん流域ハ大陸ノ内地ニ在リ
- 2 雄物川流域内ニハ僅ニ小ナル湖水唯一個アルノミナルニ反シとらうん流域内ニハ多數ノ湖水アリテ其總面積ハ流域面積(流出量計算個所ヨリ上流ノ)ノ約三五ばいせんとニ相當セリ(第一編一〇一頁參照)
- 3 雄物川流域ニハ全流域面積ノ約三分ノ一ニ相當スル平地アルニ反シとらうん流域ニハ此ノ如キ大ナル平地ナシ
- 彼此兩河川流域ノ大體ノ比較ハ次ノ如シ

雄物川

とらうん

流域内最高地點

海面上約一六〇〇米

三〇〇〇米餘

同上最低地點

零

二五〇米

以上兩地點間高サノ差

一六〇〇米

二七五〇米

以上兩地點間直線距離

六〇籽

一〇八籽

以上兩項ノ比

千分ノ二六七

千分ノ二五五

流域内平均高サ

不明

八九三米

而シテ雄物川及とらうん兩川ノ勾配ヲ比較スレハ別圖ニ舉クルカ如シ何レモ最上流ハ明白ナラサルカ故ニ之ヲ略ス

(以上とらうんニ關スル事項ハ凡テ Mulher ニ據ル)

えんすニ就テハ今明カナラスト雖モとらうんと大同小異ナルヘシト想像セラル、ナリ
降水量ト流出量トニ付テ一ケ年又ハ一ケ月平均ノ比較ハ洪水防禦計畫ニ對シテ直接ノ効力ナキ
コトハ三池君ノ所説ノ如シ降水量ヨリ直接ニ流量又ハ水位ヲ計算セントスルハ甚ダ困難ニシテ

特ニ我邦ニ於テハ一層然ルヘシ然レトモ此事ハ吾人治水事業ニ従事スルモノニ取リテハ必要ナル事項ナルヲ以テ余ハ從來多少調査シタル所アリト雖モ未タ大方ノ示教ヲ仰ク程ニ至ラサルヲ遺憾トス今余ノ有スル貧弱ナル材料ニ據リ假リニ說ヲ立ツレハ次ノ如シ

1. 冬期降雪ノ多キ流域ニテハ洪水ノ際ニ於ケル流出係數ハ年平均流出係數ヨリ少シク小ナルヘシ但シ融雪ニ起因スル洪水ハ別トス
2. 之ニ反シテ冬期殆ント降雪ナキ地方ノ流域ニテハ洪水時ノ流出係數ハ年平均流出係數ヨリモ少シク大ナルヘシ(完)

Traun 縦断面
(Müller = 據り)

